第 5号 1996. 4.11	ゾーン・システム研究会々報 Photographic Society of Zone System	発 行 者 中島 秀雄

編集部:東京都港区西麻布4-2-10東城ビル401 ゾーン・システム研究会事務局

【お詫び】

※ 会報 第4号で、八ヶ岳周辺撮影会にての文章に誤りがありました。上から15行目の古谷さんは、古川さんの誤りです。下から2行目の、自然は答えて来れの、てが入っていませんでした。訂正してお詫び致します。

会員情報

※ 新しく会員情報の枠を設けることになりました。会員情報では、会員の方が使っていない物を売りたい、又は、何か必要な物を探している人、このような物が有る、これ以外にどのような事でも結構です、どしどし投稿して下さい。但し、写真関係に限ります。

※ 今回は、大久保 守男さんより投稿がありましたので、ご紹介致します。

仕事や家庭でパソコンをお使いの皆さん、スクリーンセーバーは何をお使いですか？ AFTER DARK等は誰でも使っていると思いますが、ゾーン・システム研究会会員の皆さんにピッタリのスクリーンセーバーが見つかりました。TIME WANER ELECTRONIC PUBLISHINGから出ているANSEL ADAMS SCREENSAVERです。モニターに美しいモノクロの絵が、次ぎから次ぎへと現れるのを見ていると、リフレッシュ出来ます。個人的には続編としてADAMSのカラー作品や「CAPE LIGHT」のJOEL MEYEROWITZがリリースされるのを、期待しているのですが、The Book SHELF扱いで5,000円程です。

ＩＳＢＮ 1-57304-005-3 （CD-ROM）
ＩＳＢＮ 1-57304-006-1 （Win floppy）
ＩＳＢＮ 1-57304-008-8 （Mac floppy）詳しい事は、大久保 守男さんへ！以上です。

展覧会 会場と日取り決定

☆ ゾーン・システム研究会としての目的でもありました展覧会の会場と日取りが決定しました。会場は去年、中島 先生が写真展を開催されました代官山のオリーブと言うギャラリーです。

日程は1996年10月28日(月)～11月3日(日)です。もう後戻りは出来ませんので、目標を作って作品作りに励んで下さい。

北海道 撮影会のお知らせ

☆ 研究会では北海道 美瑛(びえい)の撮影会を開催致します。日程は1996年6月7日(金)・8日(土)・9日(日)・10日(月)の３泊４日です。

参加費は、￥95,000で、この費用の中には、航空運賃、宿泊代、レンタカー代、その他が含まれています。

航空券の購入と、宿泊の予約を早く行う必要がありますので、参加される方は、次ぎの銀行へご送金して下さい。

住友銀行 麻布支店 普通口座３４６１３０ 確認しだい参加決定とします。

尚、締め切りは、５月１日(水)と、させて頂きます。この時点で規定人数の１０人に満たない場合は中止にさせて頂きますので、あらかじめ、ご了承下さい。もちろん先に銀行振り込みを済まされた方には全額お返し致します。

今後の撮影会予定

☆ 展覧会に作品を出すのには、ネガがまだ足りない、と考えている会員の方が、いらっしやると思いますので、研究会では、中島先生と相談して２箇所計画しております。長野県のブナ林と三浦半島とです。但し、自由参加です。

日程が決まり次第、事務局からご連絡致します。

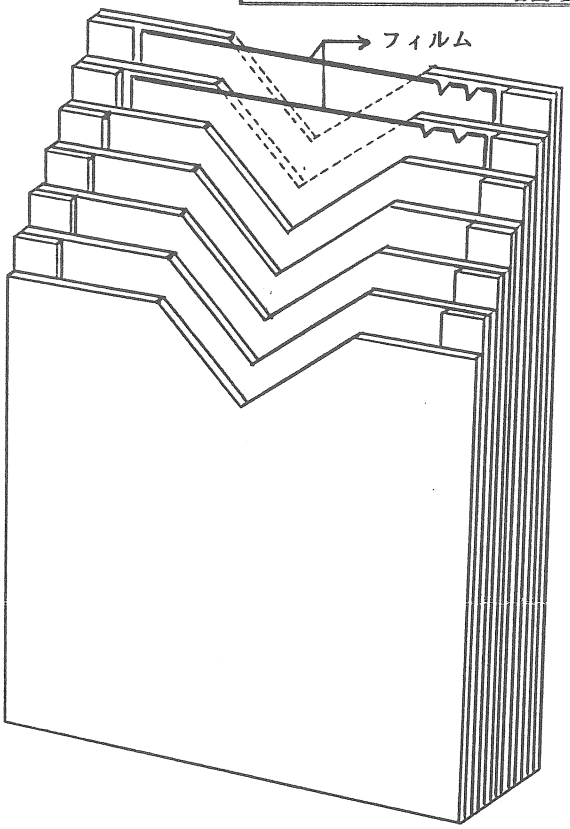
展覧会に向けて講評会の開催

☆ 先日 はがきで、お知らせ済みの通り展覧会に向けての講評会を来る４月２８日(日)ＪＲ桜木町駅下車で、一際そびえ立つランドマークタワーの１３階 フォーラムよこはま 交流ラウンジで開催します。 時間:ＰＭ１：００～５：００

既に、プリントを提出されている方は、必ず出席されるよう、お願い致します。

まだプリントを提出されていない会員の方は、この日に持参して講評を受けて下さい。印画紙はバライタ使用で、８×１０です。一人３枚以上で５枚までです。コンタクトプリントでも結構ですので、出来る限り講評を受けるようお願い致します。

現像時に使用するフィルム ホルダー
諸見里 朝和



※今回は、諸見里さんが資料を提供して下さいました。
皆さんは、フィルム現像を行っている時、手の汗や液でフィルムが引っ付いて現像時間を狂わせたり、乳剤面に傷を付けたりした経験は、ありますか？
諸見里さんは、暗室作業で、作業効率と安全性と確実なフィルム現像を行う為に、どのような方法をとったら良いか、考え付いたのがこの暗室用ホルダーです。

※これは、シートフィルム現像時に使用するフィルムホルダーです。
前浴にフィルムを入れる時、片手を液に濡らしても、もう片方の手で一枚、一枚、容易にフィルムを取り出せるように工夫しました。

①フィルムは、チェンジバッグの中でこのホルダーの中に入れます。
一枚、一枚、高さを変えてあるのは、手探りでもフィルムを入れ安くする為です。

②中央を、大きくＶ字にカットしてあるのでフィルムを、一枚、一枚、容易につまむ事が出来ます。上の段(実際は、ホルダーを倒して置くので)下の段から取り出します。

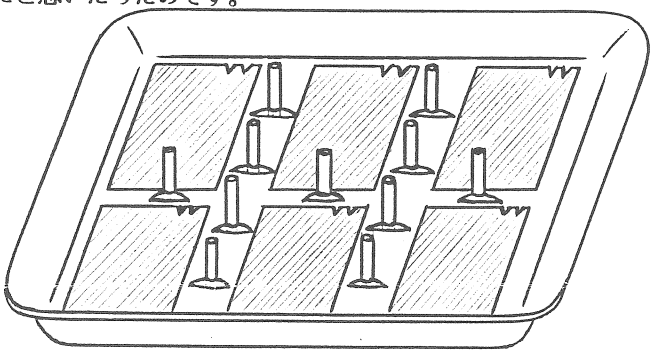
③厚いボール紙(ケント紙のような表面が滑らかなボール紙)で製作してあるので、フィルムを傷つけません。
又、紙なので製作が比較的簡単です。

☆いかがでしたでしょうか、皆さんも一回、試して見てはどうでしょうか、ちょっとした工夫で結果が大きく違って来ると思います。

☆今号と次号は、諸見里さんの暗室作業ノウハウを特集します。
現像方法については、最初の部分のみ掲載させて頂きました。次号は、現像用バットの製作マニュアルと使用方法を掲載しますので、楽しみにお待ち下さい。

4×5 in シートフィルムのバット現像について
諸見里 朝和

※ 私は現在、4×5 inのシートフィルムの現像ムラを解消する為、【fig. 1】に示すようなバットを使って現像しています。当初、市販のフィルムホルダーと専用タンクを使用し、色々な撹拌方法を試してみたのですが、どうしてもムラを解消することが出来ませんでした。思考錯誤の末、それは、ホルダーの形状とタンクの構造による撹拌ムラとの結論に至り、バットによる現像がベストだと思いたったのです。



【fig. 1】

※このバット現像方法を、考案するにあたり。
1. 勿論、第一に撹拌ムラを出さない為、フィルム乳剤面を常に均一に現像液が流れること。
2. 効率の良い枚数であること。
3. フィルムに、傷を付けない構造であること。
4. 製作が容易で、シンプルな構造であること。
(大げさな、装置は作らない) 等を重点に考えました。

※ 現在、このバットによる現像方法によって満足な結果を得ていますが、バットの製作方法や、現像時のフィルムの出し入れ、撹拌方法などには、ある程度のコツが必要です。又、多少の難点もあります。
以下、それらについて、順に述べたいと思います。

1. 製作にあたって

1)バットのサイズは大四っで、ステンレス製を使用しています。サイズは、4×5 inのシートフィルムが、6枚余裕をもって並べられるので決めました。そして、撹拌時にバットの底の形状で現像液の流れに特定の変化が出てしまうのを懸念したのと、仕切りを入れるのに細工が容易である、又、液温調整に有利である等の理由からステンレス製のバットを選びました。

2)撹拌中にフィルムどうしが重ならないように仕切りを入れる訳ですが、ここでも、仕切りによって、撹拌時に現像液の流れに特定な乱れを出さないようにすることを最重点に考えました。そして、現像液の流れに最も抵抗が小さい、ピン立てによる区分方式にしたのです。又、同じ理由により、ピンの数も最小限にしました。 結果的に製作も、いたって容易な方法となりました。

☆ 諸見里さんの現像バットの製作は次号に続きます。尚、編集部では、日々のアイデアを会員の皆様から募集しております。投稿はゾーン・システム研究会事務局まで郵送か、FAX03-3499-1766にてお寄せ下さい。〒106東京都港区西麻布4-2-10東城ビル401

ちょっとフランス旅行

井口 喜正

※ 3月10日(日)私は約４０瓰の荷物を持って成田空港の第２旅客ターミナルビルのロビーに立っていました。通常規定の約倍の荷物を持っていたのには理由がありました。吉田が作品作りを行う為の引き伸ばし機と小全紙用のイーゼルを持っていたからです、その日は特に混んでいて、私のチケットも最初はエール フランスでしたが、オーバーブッキングを起こし２日前に急遽、全日空に代わったほどです、もちろん４０瓰の荷物にもクレームが付き、３０分程の押し問答の末、私が勝利を治め、引き伸ばし機のヘッドとイーゼルは手荷物扱いになったのです、私は一安心、コーヒーショップでコーヒーを飲みながらフランスへ持って行く、お土産を考えていました。税関を通過した後、出発前の残りの時間で、お土産は、たばこを買うことにしたのです、何故かと言うとフランスはワインより たばこの方が値段が高いのです、免税店に急いで私は３カートン買うことにしました。(免税は1カートン)

PM12:00出発の時間です、飛行機は轟音を響かせて離陸路に向かい、いよいよ離陸です、機内を見渡すと今日は満席の状態で果たしてこの飛行機は、本当に飛ぶのかな！ 私が飛行機に乗る時、何時も思っていることはこのようなことです、飛行機は更にエンジンを全開にし、滑走を始めました。飛ぶか！滑走路は足りるのか！そんなことを考えている内に飛行機はフワリと浮かび、私は機上の人となりました。フランス(シャルル ドゴール空港)までの飛行時間は約１２時間、機内のスクリーンには高度10500m、速度900ｋｍ、外気温−６０°、飛行行路の位置など新しい情報を映し出してくれます、飛行行路は成田からカムチャッカ半島へ一直線で、東北地方を左斜めに飛行し、カムチャッカ半島からシベリア上空を飛行している時に機内では、去年日本でも上映されていたマディソン郡の橋のビデオが映し出されていました。そして、ベルギーからフランスに入り到着したのが10日(日)のPM4:40です、それからタクシーでオルリー空港に行きPM8:00発の飛行機に乗り、マルセイユに到着したのがPM9:10、それからタクシーでアルルまで約1時間、タクシーの中で私は大分疲れていました。

ここまでの所要時間は日本を発ってから既に２４時間経過していたことと時差ボケを起こさない為の調整をしていたからです。

タクシーのラジオからは、うるさい音楽が流れ私は不機嫌そうな顔をしていたようです、運転手が私に気を使いムッシュは何の曲が好きかと聞かれ、私はクラッシックが好きです、と答えたらパバロッティのカンツォーネのテープを聞かせてくれたのです、テープを聞いている内にアルルに到着、ホテルに着いてから吉田に電話して落ち着いたのがPM11:00頃でした。ぐったりして、お休みなさ〜い。 11日(月)の朝はゆっくり起床、前日は夜の到着でよく見えなかった町も素晴らしい町ではないか！幅が約500mのローヌ川が流れ、町はローマ時代の面影が残り、遺跡のような町並みで、こじんまりと小さな町ですが何でも揃っていて、静かで、ゆったりと時を刻んでいるような感じの町です。思わず私は吉田に良い所にいるね！と言っていました。

昼食は、レストランのテラスで魚を頼んだつもりが肉でした。それは、魚と言う名前の肉と解釈して美味しく食べましたが、ちょっと味が濃いかな！腹ごしらえをして、やっと普通の体調になった所で次ぎは、エコール・ナショナル・ド・ラ・フォトグラフィの見学です、石畳の緩やかな道を歩くと左に鉄の門があり、その門の右に暗証番号ボタンがあって、学生は自分が暗記している番号をピッポッパッと押すと学校の門が開きます、前は庭があって、庭を囲むように通路があって、正面に硝子の玄関があります。

この学校は、故 前大統領のミッテランさんが創設させたフランス国立写真大学で、もともと教会の建物を学校にしたそうです。かなり古い建物ですが、とても上手に使っており、全ての配置が素晴らしく良く出来ています。硝子の玄関から入ると、右側がギャラリーで、左側に必要資材が整理されて置いてあり、売店のような所です。奥はホールになっていて82年前のアルルの写真が６枚程、展示してあります、ホールの壁の後ろ側はコの字型に階段があって２階には教室、暗室があります、暗室は３箇所で、それぞれ置いてある機材が異なっていてチバクロームの機械から引き伸ばし機は全てのネガに対応出来るように100%揃っています。

最上階には、スタジオがあります。廊下の壁には創設当時からの卒業生の写真が卒業生毎にシンプルな額に収められ一列にボルトで止めてあります。因みに学校創設以来の日本人留学生は吉田で５人目で、もう一人３年生で日芸卒業の松井さんと日本人は二人です。７月の上旬には、アルル写真祭が開かれ町全体が、このイベントに協力し、世界中から集まったプリントを事務局が選考して、ソアレの時期に、カフェ テラスのがある、広場に展示します。又、各国から有名な写真家や評論家も参加して盛大に行われます。

もう少しアルルのことを説明しますと、アルルは歴史のある古い町で、昔ローマに占領されていた時代の建物が、そのまま残っていて、教会の回廊は、フランスでも珍しいローマ建築とゴシック建築が真っ二つに別れて建てられている、とても貴重な建物です。

そして、皆さんが良く知っているヴィンセント・ヴァン・ゴッホの住んでいた家が有ったり、パリで活躍しているファッション・デザイナーのクリスチャン・ラクロアも、この土地の出身です。又、スペインの国境に近い為、闘牛が盛んで、この時期が来ますと多くの人でにぎわいます。食材物価は日本の約４分の１で、たばこ の価格よりワインの方が安く、日本円で１本２００円から美味しいワインを飲むことができます。土曜日はマルシェ(市場)が物凄く多く立ち、普通のお店で買う価格より更に安く買うことが出来ます。

品数も豊富で、食品、日用雑貨、衣類に至るまで揃っていて、この土地で生活している人達は土曜日に一週間の買い物をすませ、足りない物は普通のお店で買います。この土地の産物は、なんと言ってもオリーブで、そのオリーブから絞ったオリーブオイルは上質差からいってもイタリアのオリーブオイルより遥かに上質で、そのまま飲むことが出来ます。土地の人は軽い病気の時にオリーブオイルを飲むそうです。

3月12日(火)は、アルルからジーゼル機関車の客車付きでニームへ行きくことにしました。所要時間は約20分、とても賑やかな町で、アルルより数倍大きな町です、ここにも闘牛場がありました。古い建物と新しい建物が一緒に有る町です、少し歩いて見ると幅が６〜７mの透き通った川があって、とても深そうに見えます、私は、この川の上流に沿って歩いて行くと公園にぶっかったのです、公園

に入ると、こんにちは！あれ！フランス語が通じるようになったと思ったらフランス人のムッシュが日本語で声を掛けて来ました。

面白いことに、何処から来ました！一瞬、国を聞かれたのかと思い無言でいましたが、気を取り直して、ああ！ 日本の何処から来たのか聞いているんだな、と思って東京から来ました。と答えたら上手な日本語で、私は２年間 上野にいました。こう言う会話を少ししている時、公園の雰囲気が違う事に気ずいたのです、この公園は水路の上に出来ていて、公園の空いている所を覗くと水がゆっくりと流れているではないか、とても珍しい公園でした。公園の後方は丘陵になっていて、S字型に道を上へ登って行くと、お城の一部があって、ここで一枚写真を撮り町に戻りました。 ギリシャのパルテノン宮殿を思わせるような大きな柱がある建物の前は、新建築のVille de Nimesと言う図書館があって、建物の内部は全て硝子で出来ています、エレベーター、階段、部屋の間仕切り、全て硝子で出来ていて、ただ一か所トイレだけは見えませんでした。最上階にギャラリーがあって、現代ﾊﾟ[illegible]展のMusée d'art contemporainを行っていました。この階の正面側にはカフェ テラスがあり、町を見下ろしながら飲むカフェの味は最高でした。

3月13日(水)ニースで行われている写真展を見に行きました。アルルからニースまでは、電車で約2時間30分位いです、PM11:00頃の出発なのでアルルの屋台で若鳥の丸焼きを買って乗り込み進行途中、美味しく頂きました。久しぶりのニースです、ニースで下車した私はタクシーで10分程の所にある会場を目指します、タクシーは緩やかな坂道を登りながら走って行くと、小高い山の上に会場はあります、門を入ると芝生で覆われた中庭があり、その奥に玄関があります、回りは閑静な場所で空気も清々し感じられる所で、早速、拝見することにしました。作家は、DENNIS ADAMS／LEWIS BALTZ／HANNAH COLLINS／PASCAL CONVERT／STAN DOUGLAS／HARUN FAROCKI／JOCHEN GERZ／JORGE MOLDER／GERHARD RICHTER／JEAN-MARIE STRAUB／DANIÈLE HUILLET／HIROSHI SUGIMOTO／BRUNO YVONNET等の作品を見ることが出来たのです、この日の次ぎの予定は、どうしても行きたい所がありました。そこはイタリアのジェノバです、ジェノバに行く目的は二つあって一つ目はスパゲティージェノバーゼを食べたかったことと、二つ目はサッカーで有名なセリエＡの本拠地と言うこともあって、どのような土地かを見たかったのです、ジェノバはニースから電車で約３時間掛かります、モナコ モンテカルロに停車して、フランスの国境を抜けると直ぐにベンティミグリアと言うイタリアに入りますがフリーパスで急にイタリア語が喧しくなります、ジェノバに着いたのは夜の10時、この町には、セリエＡが似合わないな～。唖然！ 二つ星のホテルを見つけてから、もう一つの楽しみのスパゲティージェノバーゼを食することです、見つけたレストランの おやじ が調子いいこと、スパゲティージェノバーゼに有り付けたものの、頼まない物まで出て来て結局 高く付きました。ジェノバは港町で、とても冷たい風が吹いていてイメージは、想像していたより汚い町だ！次の日、早々とアルルへ戻ることにした…が、駅員の様子が何かおかしい、調べてみるとストライキを決行しているようだ。私はてっきりイタリアがストライキだと思っていたら実はフランスで行っていた。これは困った、結局 待った末に一便だけフランスに行くことになったが、フランス国境近くのベンティミグリア駅で降ろされてしまったのです。

次ぎの電車の待ち時間が、たっぷりあるので、ベンティミグリアのレストランで昼食をとることにした。ここのレストランは、国境近くとあって、フランス人も多く要る、フランス人の家族がレストランの勘定時に、リラで勘定表をもらい金勘定をしている内に、あまりにも桁が違う為に大きな声で、桁が多き過ぎてわかんねぇや…と言って皆で大笑いしていた。

ここベンティミグリアは、フランスとの国境に近く、モナコ・モンテカルロは電車で僅か1時間程の近い所にある為、バカンスに来た人も足を伸して来る場所でもあります、大きな町ではありませんが、イタリアでは珍しく整然とした閑静で奇麗な町です。

このベンティミグリアから電車に乗って約２時間、再びニースに着きました。ニースでは、次ぎの電車を待つ間、レストランに入ってビールと軽い食事、そして食後にはアルルの労働者が飲んでいるパスチスと言う お酒です、この お酒は、グラスに３Ｃｍ程入れて、氷を入れると、琥珀色のお酒が乳白色になり、飲むと甘いお酒です。飲みつけると癖になります。美味しい～ やっとの思いでアルルに着いたのは3月14日(木)の夜10:00を過ぎていました。ストライキにはマイッタ！！ でも私だけの経験が出来ました。

15日の朝は、とても爽快でありました。アルルでゆっくりと過ごしたのです… 。 その日の夜は、ゆっくりとバーで お酒を飲んだ後、ローヌ川の淵を歩く事にした。５０ｍ程 歩いていた時、向こうから一人の男性が速足で歩いて来るではないか、その男性は私の前で止まり、荒々しい息をして一生懸命話しをしている、よく聴くと、向こうの方で酔っ払いの男が刃渡り２５Ｃｍ位のナイフを振り回している、と聴いてゾ～とした私は、今来た道を戻るように遠回りにホテルに戻りました。とても怖い思いをしました。

16日(土)はアルル最大のマルシェが出る日です、マルシェの事は前文で紹介していますが、かなり大規模な市が出ます、今日は吉田と二人で買い物です、それには理由があって、今日の夜はエコール・ナショナル・ド・ラ・フォトグラフィーの生徒の皆さんが、私の為に食事会を開いて頂けると言う事です。私の方は、ベンティミグリアで買ったパスチスとチキン カレーを吉田の所で作って持って行く予定です、これは大変好評でした。フランス人もカレーライスがとても好きでした。マリーちゃんは、僕の為にアップルパイを作ってくれました。ちょっと甘いけどコントン(嬉しい)両方の ほっぺたにチュッチュッとします。とても楽しい夜で、気が付いたら午前1時を過ぎていました。17日(日)アルルは今日で最後、学校の写真ギャラリーを見たり、土で作ったアルルの置物を見たり、貴重な建築の教会を見たり、闘牛場の外側をゆっくり見ている内に、お昼なったのでビールとピザパイで腹ごしらえの後、やっと写真を撮る事が出来ました。写真は６×６で３本しか撮れませんでした。中一週間は、とても短くて あっ！と言う間に過ぎた感じです、この次ぎ来る時は、もっとゆっくり来たい所です、私のヨーロッパ出張は今回で31回目になりますが、半分 仕事以外で来たのは今回が始めてでした。

今日、18日(月)は帰国の日です、今までの思いでを大事に胸の奥にしまって、帰りたくない自分に気合を入れて、さあ出発です、アルルからニーム空港まではタクシーで15分程の所にあります、朝6:00の出発でエクサン・プロバンスとも お別れです。約1時間10分でオルリー空港で、20フランのバス代でシャルル・ドゴール空港に付きました。パリ出発は、PM13:30です。前日、吉田が作ってくれた おにぎりを空港待ち合い室で食べていたら、外の日本人が、うらやましそうに見ていた。それは大人のふりかけに海苔でした。一路日本へ。